

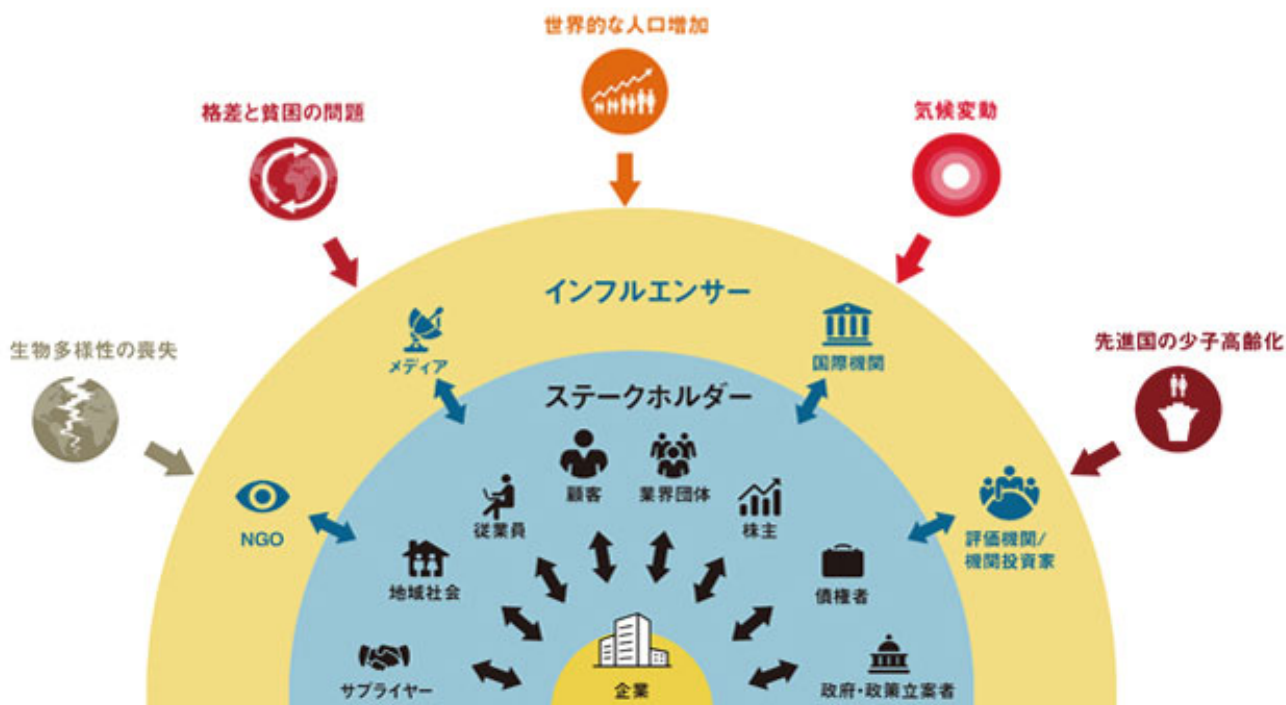
# サステナブル経営の全体像

## 企業に求められる社会的責任の変化を受けて

世界的な人口増加や、先進国の少子高齢化、気候変動、生物多様性の喪失、格差と貧困の問題など、国内外における非連続な変化によって、私たちは時代の大きな転換点に立っており、従来の延長線ではない、将来の変化を見据えた価値創造が求められています。加えて、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」や気候変動の新たな枠組みである「パリ協定」等、社会の持続可能な発展に向けた取組みも進展し、企業に対する社会的課題解決への期待も高まっています。

こうした変化を受け、企業に期待される役割は急速に変化しているものと認識しています。現在では、企業が持続的(サステナブル)に事業活動を行うためには、その事業基盤である環境・社会を持続可能とするような事業活動を通じた貢献が求められています(=サステナブル経営)。

当金庫は、コーポレートブランドステートメントとして“持てるすべてを「いのち」に向けて”を掲げています。農林水産業者の協同組織を基盤とする金融機関という原点に立ち返り、当金庫のみならず、当金庫をとりまく重要なステークホルダーの皆さまにとって大切な持続可能性に関する課題に適切に対応することにより、環境・社会の持続可能性とともに、当金庫の経営の持続可能性の向上を目指します。



## サステナブル経営の全体像

# サステナブル課題の整理

環境・社会問題が多様化・深刻化するなか、持続可能な社会の実現に向け、企業の事業に対する関心が高まっています。

こうした社会の変化を捉え、これまでの6分野17課題のCSR課題の見直しを実施し、5分野14課題のサステナブル課題を設定しました。設定にあたっては以下の4点に留意し、下図のようなプロセスで策定しました。

### 留意した点

- ①持続可能性に関する課題への対応を念頭に置くこと
- ②当金庫を取り巻くステークホルダーの意見を踏まえること
- ③SDGsをはじめサステナビリティに関するさまざまな視点に留意すること
- ④中期経営計画(2019～23年度)を踏まえること

## ビジネスモデル整理

当金庫の各本部へのインタビュー

## ステークホルダー特定

重要なステークホルダー(会員・地域社会/従業員/顧客等)の特定

## 課題リスト作成

サステナブル課題ユニバースの策定(ISO26000/GRI/SDGsをベースに作成)

## 課題リストから重要課題の特定

ステークホルダー・インタビュー

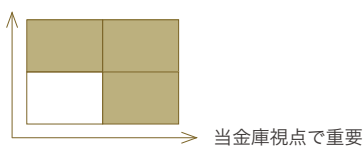
社内インタビュー

ステークホルダーの重要課題の特定

当金庫の重要課題の特定

## 課題マップの作成

ステークホルダー視点で重要



当金庫視点で重要

当金庫・ステークホルダーの双方にとって重要な課題を抽出  
(左図色掛け部分)

## サステナブル経営の全体像

### サステナブル課題の特定(5分野14課題)

5分野	14課題
(分野1) 農林水産業・食・地域への ポジティブインパクトの創出	> (課題1-1) 持続可能な農林水産業への貢献
	> (課題1-2) 安心・安全な食料供給への貢献
	> (課題1-3) 持続可能な地域コミュニティへの貢献
	> (課題1-4) 農林水産業の基盤としての自然環境の保全
	> (課題1-5) ビジネスイノベーションの創出
(分野2) 責任ある金融の推進	> (課題2-1) サステナブルファイナンスの推進
	> (課題2-2) 持続可能なエネルギー利活用への貢献
	> (課題2-3) 誰も取り残さない金融の実現
(分野3) サステナビリティ経営の推進	> (課題3-1) 透明性のある組織統治体制の確保
	> (課題3-2) 環境や社会に関するリスク機会の管理強化
	> (課題3-3) ステークホルダーエンゲージメントの強化
(分野4) 高度な人財の確保	> (課題4-1) ダイバーシティと機会均等の向上
	> (課題4-2) 人材育成の強化
(分野5) 金融機関の信頼基盤維持	> (課題5-1) コンプライアンス態勢の更なる強化

※各課題の中期目標・貢献するSDGsについては、各課題ページをご覧ください。